

令和元年度

授業シラバス・年間指導計画

地歴・公民(2年)

教科名	科目名 (校内科目名)	単位数	科	履修年次
地理歴史	世界史B	3	普通科	2
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書 (発行所)	『詳説世界史B』 (山川出版社)
教科書以外の教材 (発行所)	『アカデミア』 (浜島書店) 『詳説世界史Bスタンダードテスト』 (山川出版社) 『世界史一問一答』 (Z会)

目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
学習のねらい	1 世界史の扉 身近なものや日常生活にかかわる主題、我が国の歴史にかかわる主題など、適切な主題を設定し追究する学習を通して、歴史に対する関心と世界史学習への意欲を高める。 2 諸地域世界の形成 人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 3 諸地域世界の交流と再編 ユーラシアの内陸及び海域のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発になり、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 4 地球世界の形成 科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、現代世界は地球規模で一体化し、相互依存を強めたことを理解させる。また、国際対立と国際協調、科学技術と現代文明などの観点から20世紀の歴史の特質を考察させ、未来を展望させる。
定期考査など	教科書の内容を中心に、授業プリント、研究ノートなどから出題する。詳細は授業内で指示する。
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は、世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心・意欲・態度、歴史的事象や現代世界の特質に関する見方や考え方、資料活用 of 技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考査などの考査に加え、授業の中での考察、授業プリントの確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。
先生からアドバイス (予習・復習、授業の受け方、ノートの取り方)	授業があった日には必ずその日の学習範囲を見直し、基本語句をチェックしておきましょう。大きな単元が終わったら、自分でノートをまとめ、歴史の大きな流れをきちんと理解するように心がけること。

年間授業計画表			
学期	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	1章 オリентと地中海世界 1 古代オリент世界 2 ギリシア世界 3 ローマ世界 2章 アジア・アメリカの古代文明 1 インドの古代文明 2 東南アジアの諸文明 3 中国の古典文明 4 南北アメリカ文明 3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成 1 草原の遊牧民の活動とオアシスの定住民 2 北方民族の活動と中国の分裂 3 東アジア文化圏の形成 4章 イスラーム世界の形成と発展 1 イスラーム世界の形成 2 イスラーム世界の発展 3 インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化 4 イスラーム文明の発展 5章 ヨーロッパ世界の形成と発展 1 西ヨーロッパ世界の成立 2 東ヨーロッパ世界の成立 3 西ヨーロッパ中世世界の変容 4 西ヨーロッパの中世文化 6章 内陸アジア世界・東アジア世界の進展 1 トルコ化とイスラーム化の進展 2 東アジア諸地域の自立化 3 モンゴルの大帝国	59	・オリент文明の特徴 ・現代にも影響のある実用的な文化 ・古代民主政治の特徴 ・ギリシアとローマの民主政の違い ・ローマ帝国の盛衰とキリスト教 ・仏教、ヒンドゥー教の特徴 ・インド文化と中国文化の影響 ・中国文明と秦漢帝国 ・アメリカ文明の特徴 ・遊牧民とオアシス民の交流と衝突 ・中国社会の変動と北方民族 ・唐代の中国と東アジアの交流 ・中国と周辺地域の力関係の変化 ・モンゴルの発展による東西交流 ・イスラーム教の特徴 ・イスラーム教の影響を受けた地域とその文化的特徴 ・イスラーム文化と現代のかかわり ・ゲルマン民族とキリスト教文化 ・カトリック教会と封建社会の特徴 ・ギリシア正教と東ローマ ・中央集権がどのように進化したか ・カトリックが文化に及ぼす影響 ・東西交流の歴史的変化
後 期	7章 アジア諸地域の繁栄 1 東アジア世界の動向 2 清代の中国と隣接諸地域 3 トルコ・イラン世界の展開 4 ヨーロッパ諸国の海外進出 8章 近世ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 ヨーロッパ世界の拡大 2 ルネサンス 3 宗教改革 4 ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成 9章 近世ヨーロッパ世界の展開 1 重商主義と啓蒙専制主義 2 ヨーロッパ諸国の海外進出 3 17～18世紀のヨーロッパの文化と社会	58	・明の誕生、朝鮮・日本の政治の変化 ・清代の中国 ・イスラーム世界の変化 ・ティムール・サファヴィー・ムガル帝国の特徴 ・新航路の開拓とそれによるアメリカ大陸の変貌 ・ルネサンスや宗教改革などヨーロッパでの政治・文化の変革 ・16世紀の世界の一体化への動き ・主権国家体制の特色 ・主権国家によるヨーロッパの国際関係と商業覇権の推移 ・奴隷貿易と大西洋三角貿易 ・17・18世紀の文化の特徴

学 期	学 習 内 容	時 数	学習のポイント
※ 続 き	10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 産業革命 2 アメリカ独立革命 3 フランス革命とナポレオン		・イギリス産業革命の背景と展開 ・資本主義経済の確立とイギリスの繁栄 ・労働運動や社会主義思想の発生 ・米独立革命、仏革命、ナポレオン時代、中南米諸国の独立の経過と意義
後	11章 欧米における近代国民国家の発展 1 ウィーン体制の成立 2 ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生 3 南北アメリカの発展 4 19世紀欧米の文化 12章 アジア諸地域の動揺 1 オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの激動 13章 帝国主義とアジアの民族運動 1 帝国主義と列強の展開 2 世界分割と列強対立 3 アジア諸国の改革と民族運動 14章 二つの世界大戦 1 第一次世界大戦とロシア革命 2 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 3 アジア・アフリカ地域の民族運動 4 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 5 第二次世界大戦 15章 冷戦と第三世界の独立 1 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 2 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 3 第三世界の台頭と米ソの歩み寄り 4 石油危機と世界経済の再編 16章 現在の世界 1 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 2 途上国の民主化と独裁政権の動揺 3 地域紛争の激化と深刻化する貧困 4 現代文明の諸特徴		・ウィーン体制の特色と体制下の各地の自由主義・ナショナリズムの高まり ・アメリカ合衆国の発展と移民の流入、人種・民族問題 ・ヨーロッパ諸国の進出によるアジア諸国の変容 ・19世紀の世界の一体化への動き ・帝国主義と各国の国情 ・インド、中国などアジア諸国の民族運動 ・第一次大戦の経過と影響 ・戦後協調主義の発展と各国の経済状況 ・戦後世界の変化と特質 ・第二次大戦の経過と影響 ・米・ソ両陣営の対立と民族独立運動の動向
期			・1960～70年代までの世界の政治・経済の動向 ・1970年代から現在までの地球社会形成に向けての、諸地域世界の情勢の大きな流れ ・これからの世界と日本の課題
	総時間数	117	

教科名	科目名（校内科目名）	単位数	科	履修年次
地理歴史	日本史A（日本史A）	3	普通科	2
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		

教科書（発行所）	『日本史A』（山川出版社）
教科書以外の教材（発行所）	『新詳日本史図説』（浜島書店）『改訂版詳録新日本史史料集成』（第一学習社）『日本史用語集』『日本史総合テスト』（山川出版社）『日本史B一問一答完全版』（カネ）

目 標	我が国の近・現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。		
学 習 の ね ら い	開国・幕府の滅亡と新政府の成立からの明治時代の近代日本の歩みについて、アジアにおける国際環境と関連付けて考察させる。 第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る我が国の歴史について、世界情勢と国内の動きを関連付けて考察させる。 第二次世界大戦の終結から今日に至る我が国の歴史について、世界の動向と関連付けて考察させるとともに、広い視野から日本の文化や課題について認識させる。		
定 期 考 査	出題方針	教科書の内容を中心に、問題集などから出題する。	
	範 囲 （予定）	第1回考查	アジアの激動と日本の開国～明治初期の外交
		第2回考查	殖産興業と文明開化～産業革命と社会の変容
		第3回考查	明治の文化～恐慌の時代
		第4回考查	政党内閣期と内政～第二次世界大戦と太平洋戦争
		第5回考查	占領と改革～日本社会の動揺
評価の観点・ 評価の方法	○評価の観点は、我国の歴史の展開に対する関心・意欲・態度、社会科学的な見方や考え方、資料活用 の技能・表現、知識・理解の4項目とする。 ○具体的な評価は、定期考查に加え、授業の中での考察、ノート提出・問題集確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。		
先生からアドバイス （予習・復習の方法、 授業の受け方、ノート の取り方など）	教科書の記述内容のみでなく、図説の資料や新聞・ニュース報道、また様々な書籍に親しむことによりより深く歴史や文化について考察して欲しい。予習復習は教科書の読み込み、ノートの確認、用語集・問題集等を利用すること。		

年 間 授 業 計 画 表					
期	月	曜	学 習 内 容	時数	学習のポイント
前 期	4	第3部	第1章 開国と明治維新	3	アジアの激動と日本の開国
				3	江戸幕府の滅亡
				4	明治維新
	5			4	富国強兵
				4	明治初期の外交
			《第1回考查》	1	
	6			3	殖産興業と文明開化
			第2章 立憲国家の成立	5	自由民権運動
				5	立憲制の成立
	7	第3部		5	立憲政治の展開
			5	日清・日露戦争	
			5	産業革命と社会の変容	
後 期	8	第3部	《第2回考查》	1	
				4	明治の文化
	9		第3章 第一次世界大戦と日本	4	政党政治の展開
				4	ワシントン体制
				4	経済・社会の変容
	10	第4部		4	市民文化
			第4章 昭和の恐慌と満州事変	4	恐慌の時代
			《第3回考查》	1	
	11			4	政党内閣期の内政と外交
			4	軍部の台頭	
第5章 第二次世界大戦と日本			4	日中戦争	
12	第4部		4	重化学工業と統制経済	
			3	第二次世界大戦と太平洋戦争	
		《第4回考查》	1		
1		第6章 占領下の日本	4	占領と改革	
			4	冷戦の開始と講和	
		第7章 経済繁栄と保守長期政権	4	55年体制	
			4	高度経済成長期の経済と社会	
			第8章 現代の世界と日本	4	冷戦終結と日本
				3	日本社会の動揺
			《第5回考查》	1	
			総 時 間 数	117	

教科名	科目名(校内科目名)	単位数	科	履修年次
地理歴史	地理B	3	普通科・理数科選択者	2
履修形態	授業形態	指導者名		
選択	一斉授業	地歴科担当者		
教科書(発行所)		『新詳地理B』(帝国書院) 『新詳高等地図』(帝国書院)・		
教科書以外の教材(発行所)		『新編地理資料2019』(とうほう)、『地理用語集』(山川出版社) 『2019 データブック オブ ザ ワールド』(二宮書店)		
目 標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
学習のねらいなど	現代世界の系統地理的考察 ①世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例をいくつか取り上げ、世界の資源、産業を大観させる。 ②世界の都市・村落や消費、余暇に関する行動、人々の衣食住などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例をいくつか取り上げ、世界の都市・村落、生活文化を大観させる。			
定期考査について	出題方針	教科書及び授業中に配付するプリントを軸に作成。地図帳、資料集の関連した図表、統計等及び演習プリントからも出題する。		
	範 囲	第1回考査	第Ⅰ部さまざまな地図と地理的技能〔1 地理情報と地図、2 地図の種類とその利用(地球儀とさまざまな地図、地理情報の地図化)、3 地図の活用と地域調査〕地形図の見方と地形の成り立ちを地形図から分析・検討してゆく作業・実技学習とハザードマップの作製の仕方とGIS：地理情報システム・GPS：全地球測位システムの利用と登場と身近なPC活用による市民生活への防災へ向けた取り組みの啓発と普及。 第Ⅱ部現代世界の系統地理的考察 1 章自然環境〔1 世界の地形(大地形と内的営力、大地形の分布と資源の分布との関連、マントル対流と大陸の移動、プレートテクトニクス理論、安定陸塊の地形、古期造山帯の分布と地形、新期造山帯の分布と地形、プレートの動きと褶曲運動、断層運動がつくる地形の特色と活断層地震、火山が作る地形、小地形と外的営力、河川がつくりだす地形、海岸の海と河川がつくりだす地形、氷河がつくりだす地形、水と石灰岩がつくる地形 *様々な図・図表をみながら地域・世界を捕らえてゆく方法を中心に出題予定。	
		第2回考査	2 世界の気候(気候要素と気候因子、地球の現在の大気の状態を具体的な事例からの分析と検討、去から現在までの気候の変遷、海と陸の役割、地球のスケールとミクロの動きからみる大気のと気候の関係)、さまざまな気候区分と世界の気候、人類の生活と気候との密接な関係)、日本の自然の特徴と人々の生活(地形、気候などと私たちの生活)、4 環境問題(世界の環境問題、さまざまな環境問題、日本の環境問題) *様々な地域の特色の見方と分析の仕方を取り上げて、地域には特殊性と共通性がみられること世界の各地域に事例をとり、考えさせる予定。	
		第3回考査	2 章資源と産業〔1 産業の発達と変化(産業革命と近代資本主義の登場と、地球の一体化の進展の動向、グローバリゼーションの進展と南と北の経済格差と地球環境への影響、京都議定書と地球温暖化対策の現状)、2 世界の農林水産業(世界の農牧業の実態、世界の農牧業地域の動向と食糧生産の実態と、分配の現状と問題点)、3 食料問題(世界の食料問題、さまざまな食料問題、日本の食料問題) *グローバル化する現代世界の結びつきを、様々な地域の特色の見方と分析の仕方を取り上げていき、地域には地域的特殊性と一般的共通性がみられることを世界の代表的な地域に事例をとり、総合的な視点から現代の課題を見つけ解決を模索することなどを中心に出題予定。	
		第4回考査	4 世界のエネルギー・鉱産資源(資源の時代ごとの有効性と限界性の変遷史の動	

		向、資源の分布と資源の生産・分配と格差の実態と問題点) 5 資源・エネルギー問題(現代世界の資源・エネルギー問題ほか) *エネルギー資源及び鉱産資源の分布、統計を資料にし、地球的な課題を総合的に把握し分析して課題を見いだして、解決策を模索追究してゆく観点を中心に据えて出題予定。
	年度末考査	6 世界の工業(重厚長大型の近代的産業革命型の工業生産システムの出現から、20世紀後半の軽薄短小型省エネルギー型のハイテク型工業生産システムへの転換の動向と実態、最新の地球温暖化対策と京都議定書の現在の関係の実態)、7 第3次産業(第3次産業の発展、世界の観光業) *2年生の総合的なまとめを自然(地形・気候)・資源と産業を総合的に関連づけ試行錯誤的な課題設定・課題追究型にサイエンスの学習展開を実施。 *今までに学習した事項が総合的に問える内容の出題を予定。
評価の観点・評価の方法	○評価の観点は地理Bで取り扱う諸問題への関心・意欲・態度と現代世界の地理的事象に対する思考・判断力・資料活用技能により行う。 ○具体的な評価は、定期考査などの考査に加え授業の中での考察、授業プリント確認、課題提出などを適切に活用して総合的に行う。	
先生からアドバイス(予習・復習の方法、授業の受け方、ノート の取り方など)	教科書や資料集を参考に、授業の中で学習内容をしっかりと理解していこう。また、地図帳や写真などの資料を参考に、それぞれの地域での生活・文化を理解したい。さらに、新聞・ニュース報道・インターネット等により現代の状況にも注目し、学習していることを応用させてほしい。 なお、基本的な語句や事項をしっかりと理解しておくのはいくまでもないが、ただ記憶するのではなくその仕組みや背景等について、論理的に思考する姿勢を持ってもらいたい。 *校外模試・校内実力テスト・定期考査を利用し、しっかり復習しよう。	

年間授業計画表					
学 期	月	単 元	学 習 内 容	時 数	学 習 の ポ イ ン ト
前 期	4	第Ⅰ部	第Ⅰ部さまざまな地図と地理的技能 1 章地理情報と地図 2 章地図の活用と地域調査〔地形図の見方と地形の成り立ちを地形図から分析・検討してゆく作業・実技学習とハザードマップの作製の仕方とGIS：地理情報システム：・GPS：全地球測位システム：の利用と登場と身近なPC活用による市民生活への防災へ向けた取り組みの啓発と普及〕	10	・電子化された地図は必要不可欠であるといわれている。電子化された地図利用は、国民生活の各場面で積極的に利用展開される。GIS(地理情報システム)の今日的意義と役割を学び、防災や犯罪防止・地域コミュニティーなどに積極的に身につけて利用できる。
		第Ⅱ部	第Ⅱ部現代世界の系統地理的考察 1 章自然環境〔1 世界の地形(大地形と内的営力、大地形の分布と資源の分布、マントル対流と大陸移動、プレートテクトニクス説、安定陸塊の地形、古期造山帯の地形、新期造山帯の地形、プレートの動きと褶曲運動、断層運動がつくる地形の特色と活断層・地震、火山が作る地形、小地形と外的営力、河川がつくりだす地形、海岸の海と河川がつくりだす地形、氷河がつくりだす地形、水と石灰岩がつくる地形) 《前期第1回考査》	15	・1/25000の地形図・1/50000地形図から様々な地形を読み取り、地形図の読図を通じて、防災上必要とされはじめてきたハザードマップづくりなどの意義とその作成の方法を身につけてゆく。 ・自然環境(地形・気候)中心に人種・民族など人文環境も学習する。 ・地球環境を地形・気候の両面から学習していく。 ・プレート=テクトニクス理論から、科学的な地球構造の成り立ちを大地形からとらえ、活断層と地震・マントルの動きと火山活動・大地形の分布と資源の分布などの関連性を考察する。 ・大陸移動が各時代の地形の形成や、特に気候の変動に大きく関わっていることを分析・考察する。 ・地表面に展開される河川がつくりだした三角州・扇状地などの数々の小地形をつくりだす氷河の動き・大気の状態・風のながれ・海水の動きなどの外的営力的なメカニズムなどを科学的にみてとらえてゆく方法を身につける。 ・教科書・授業プリント・資料集・地理B要点ノートから総合的に基礎基本重視、応用的問題資料読み取り重視し出題を予定。
	5		2 世界の気候(気候要素、気候因子、地球の現在の大気の状態、代表的な地	20	・温暖化している現状を気候学的な点から概観し現状を展望してゆく。気候要素・気候因子などから、現実の世界各地の気候

	6	域を取り出し、生活との関連を考えながら理解を深めていく。過去から現在までの気候の変遷、海と陸の役割、地球のスケールとミクロの動きからみる大気の流れと気候の関係、気候区分と世界の気候、人類の生活と気候との密接な関係の現状)、		の分布を理解する。地形・気候の自然環境にある物質に対してそこで人類がいかににはたらきかけて物質文明化した今日につながる路線を展開してきたのかの道筋をみてゆく方法を、言語・文化・経済・社会・歴史などの多面的な観点から総合的に分析・検討してとらえていく方法を身につける。
	7	3 日本の自然の特徴と人々の生活(地形、気候などと私たちの生活)、4 環境問題(世界の環境問題、日本の環境問題など)		・教科書・授業プリント・資料集・地理B 要点ノートから総合的に基礎基本重視、応用的問題資料読み取り重視した問題追究型作問を予定。
	8	《前期第2回考査》		
後期	9	2 章資源と産業〔1 産業の発達と変化(産業革命と近代資本主義の登場と地球の一体化の進展の動向、グローバルゼーションの進展と南と北の世界の格差と地球環境の悪化、京都議定書と地球温暖化に対する対策の現況)、2、世界の農林水産業(世界の農牧業の実態、世界の農牧業地域の動向と食料生産の実態と分配の現状と問題点)、3 食料問題。	12	・農産物の生産地域と地形・気候などの自然環境の関係。各種生産物の生産の歴史的・文化的・社会的・経済的仕組みと流通・販売の仕組みと成り立ち。世界での各生産物ごとの生産地域の分布と流通・販売の関係。現代社会でもとりわけ、複雑化・激しく変動する20世紀末の冷戦後のグローバルゼーションの動きの中で、世界の多様・多面的な生産物と流通・販売の仕組みの成り立ちを総合的な観点から分析・検討していく。
	10		14	・資源の生産と分布の流通の成り立ち、世界の各生産物ごとの生産地域分布と流通の関係を分析し検討する力を身につける。
	11		10	・資料や統計をもとに南北間で食料問題が異なることを理解するとともに、食の安全について考える。
	12	《後期第3回考査》		・教科書・授業プリント・資料集・地理B 要点ノートから総合的に基礎基本重視、応用的問題資料読み取り重視した出題を予定。
	1	4 世界のエネルギー・鉱産資源(資源の時代ごとの有効性と限界性の変遷史の動向、資源の分布と資源の生産・分配と格差の実態と問題点)、5 資源・エネルギー問題(現代世界の資源・エネルギー問題、日本の資源・エネルギー問題)	18	・歴史的な時代背景を考慮しながら、資源開発や生産国同盟などが組織化され、世界経済に大きな力を持つようになったことや、代替エネルギー・都市鉱山について理解を深める。
	2	《後期第4回考査》		・工業生産の内容や立地、地域の変容、特に発展途上国の工業化や企業の国際化・情報化についての関係を総合的な観点にたって分析・検討する方法を身につける。
				・各地域には共通性と特殊性があり、さまざまな指標によって多様な地域に分け、その地域性を特徴を理解する。
				・20世紀後半から世界では様々な地球的な課題が生じてきた。ここでは、急激な人口増・食料生産の伸び悩み・北の先進地域と南の発展途上地域間の経済的格差の問題・地域的なみならず地球的な気温の上昇、有限な化石燃料の枯渇の問題などの諸課題を地球的視野にたって分析・検討し、問題点と解決策を考察する。
				・人口の増大とその現状を分析して行く方法を先進国と発展途上国の事例を取り上げて、分析する方法を身につける。
				・環境・エネルギー問題の現状を世界の各地域に事例を求めて取り上げて分析し、問題点を整理し、解決していく方法を考察する。
				・教科書・授業プリント・資料集・地理B 要点ノートから総合的に基礎基本重視、応用的問題資料読み取り重視した出題を予定。
	3	6 世界の工業(重厚長大型の近代的産業革命型の工業生産システムの出現から、20世紀後半の軽薄短小型省エネルギー型のハイテク型工業生産システムへの転換の動向と実態、各種工業ごとの工業立地、日本企業の海外進出)〕7 第3次産業(第3次産業の発展、世界の観光業)《年度末考査》	18	・各種工業の立地条件の理解、世界の工業地域の立地の要因と現状・課題、日本の工業の発達とその立地、立地移動
				・教科書・授業プリント・資料集・地理B 要点ノートから総合的に基礎基本重視、応用的問題資料読み取り重視し問題追究型作問を予定。
		総時間数	117	